



威風堂々としたフロントマスクだけでなく、ボディパネルの細かいプレスラインや"張り出し"もしっかりと再現されている。色はシルバーとマグネシウムカラーの2色。価格1万6590円。



まだ国内へは正規輸入されていない最新型のフォード・マスタングがミニッツなら今すぐでも入手可能。初代マスタングのレトロな雰囲気を現代風にアレンジしている。価格1万6590円。

KYOSHO®

アメリカンマッスルカー、クライスラー300Cが登場!

text:Takashi Koga/Jun e Co. photographs:Takashi Shimizu

クライスラー300Cは、無骨なまでの押し出し感が漂うフロントマスクが特徴的だ。ホイールアーチ周りは張り出しが強調されていて、まるでアスリートの"筋肉"を表現しているかのよう。エクステリアが放っているオーラは「レトロ」なのだが、決して古臭いわけではない。'50年代の古き良き時代のアメ車の雰囲気を見事に復活させながら、パートナーであるメルセデス・ベンツの技術をテンコ盛りにした新生アメリカンマッスルカーの到来である。

そんなクライスラー300Cがミニッツでも登場した。威風堂々とした姿は驚くほど実車に忠実で、R/Cカーなのにその迫力たるや唯一無二である。エクステリアには実車同様にメッキパーツが多く用され、バッジやミラーといった細かい部分もしっかりと再現されている。開発者に話を聞けば、ヘッドライトのディテールがイチオシのこだわり部分だという。ヘッドライトは人間で言えば「目」に当たる。人間の表情で重要な場所は、クルマにとっても

同じことなのだと。

約1/28スケールのミニッツは、"オモチャ"の域を越えた高い完成度を誇るのがセールスポイントだが、300Cではほかのモデルよりもいっそう高い完成度を持つ。今回の開発にあたってはクライスラーからの全面協力を得ていて、CADデータを受け取ったほど。なんと、300Cが世間一般に発表される前からミニッツのラインナップへの投入がクライスラーと京商の首脳陣によって取り決められていたという。当

然、クライスラー300Cを担当したデザイナーが抱いていた期待は高いものだったが、金型の段階から何ら不満ない仕上がりであった。R/Cカーとして楽しむユーザーが多いミニッツだが、オブジェとしての精巧な作りも特筆モノ。300Cに興味がある人はぜひ手に取ってみて欲しい逸品だ。

今月のKYOSHO コラム&ニュース

001

いま一番人気のミニッツは?
MINI-Z人気投票の最終結果が発表される。

京商のホームページ内で実施されたミニッツの人気投票。投票期間3カ月で1万2123票も集まつたというから、ミニッツへの注目度の高さがうかがえる。ミニッツには様々なタイプの乗用車からレーシングマシンまで、なんど

100種類以上ものラインナップが用意されている。そしてその数は、今も新モデルの登場で続々と増えている。

投票でダントツの1位に輝いたのは、G'ZOX 無限 NSXのGTマシンだった。レーシングマシン独特のスポイラー類、ドアミラーの形状、ホイールなども忠実に再現されている。驚くべきはボディにところ狭しと貼られたデカール類。虫眼鏡でじっくり見てみるとなるほど精巧に再現されているのだ。こういった細かいこだわりに、ミニッツのR/Cカーを超えたホビー・ギアとしての性質が感じ取れる。もちろん見た目だけではない。プロポを手にとって実際に走らせれば、こちらの手の動きにダイレクトに応える俊敏な動きに心を奪われてしまうだろう。

人気ランキング・ベスト5

京商「MINI-Z time」オンライン投票調べ。

順位	車名
1	G'ZOX 無限 NSX
2	カルソニックスカイライン2003
3	マツダRX-7 FD3S
4	CLK-DTM 2002 AMGメルセデス
5	フェラーリ F40



1位にランクインしたのは、「02年に「GT500クラスチームタイトル」獲得という輝かしい戦歴を持つG'ZOX 無限 NSX。当時の栄光を髣髴させるファン垂涎の1台だ。価格1万6590円。